

REPORT 2

特定非営利活動法人 障がい者自立生活センター 「ほっと大仙」

移動福祉店舗から本場横手やきそばの味が堪能できる

(高齢者・障害者福祉基金 地方分 平成17年度)

〒014-0024 秋田県大仙市大曲中通町1-29
TEL・FAX 0187-62-7766
http://www.hotdaisen.jp/

特集 ● 基金事業の振り返りと、市民活動のちから

第40号でも紹介した特定非営利活動法人障がい者自立生活センター「ほっと大仙」(理事長・石川和美)の移動福祉店舗事業。平成17年度高齢者・障害者福祉基金の助成により軽トラックを購入し、移動販売用の調理コンテナ一式も荷台に設置して「横手やきそば」の出張販売をしているものです。ここでは移動福祉店舗事業の広がりや、法人の発展について取り上げてみたいと思います。

秋田県大仙市は2005(平成17)年3月、大曲市とその周辺6町1村が合併して誕生しました。東北新幹線で盛岡まで行き、そこから秋田新幹線「こまち」に乗り1時間ほどで大曲駅に到着します。盛岡からの秋田方面は降雪量が大変多い地域です。



現在のほっぺと移動福祉店舗として活躍する「やきそばカー」



駄菓子屋ほっぺ開設当時の様子

1 「ほっと大仙」の現況

2004(平成16)年、現在の「ほっと大仙」の奈良克久施設長が中心となり、「福祉のまちづくり会」が結成され、「駄菓子屋ほっぺ」を商店街にオープンしたのがルーツです。「4坪の小さいプレハブからスタートしました」とサービス管理責任者の高橋洋子さんは振り返ります。その後、商店街の空き店舗や蔵造りの建物を活用していましたが、商店街の区画整理に伴い2007(平成19)年12月に福祉店舗「ほっぺ」が新装開店しました。

◆ ◆ ◆
店内は白を基調とした柔らかなデザインで、ガラス張りにもしてあるため、とても明るく開放感があります。また、駄菓子、織物、写真などがきれいにディスプレイされています。ちょうど取材日は、駐車スペースを事務所にする改築工事が行われていました。「利用者21名で職員が12名、当初からくらべて増えてきましたので」と奈良さん。「ほっと大仙」は順調に発展段階を踏んでいます。

2 平成17年度のWAM基金の助成が契機

長寿・子育て・障害者基金を知ったきっかけについては、「確か福祉のまちづくり会の時にどなたかが教えてくれたかな」と奈良さんは思い出していました。

「当時は商店街もさみしくなっていて、店舗で待っているだけだと限界があると感じていました。そこでいろいろな場所に出て行って、出張販売」できる

ほうがよいのではと思い、秋田県の社会福祉協議会に相談しました」。そのような経緯から「やきそばカー」を発売し、地方分の助成を申請しました。

地域の実情を把握した上での「企画力」と、すぐに実行に移すことができる「行動力」があったからこそ翌年に助成を受けることができたのでしよう。

その頃、全国各地では、障害者自立支援法の施行に向けて試行錯誤している団体が多かった時期でもありません。「実際、うちも含めて、県内でも小規模作業所単独で続けていくのが厳しい団体もありました。ただ、ほっと大仙の場合、やきそばカーのおかげで、ある程度の工賃を生み出すことができ、新体系になんとか移行できました」と奈良さんと高橋さん。このような時期を経て、「ほっぺ」は2006(平成18)年10月から障がい福祉サービス事業所として運営しています。

3 B-1 グランプリの「横手やきそば」が大仙市でも食べられる

2009(平成21)年9月に開催された、第4回B級ご当地グルメの祭典「B-1 グランプリ」ゴールドグランプリに輝いたのは横手やきそばです。横手やきそばは一躍、大仙市の近隣の横手市の名物となりましたが、大仙市でも福祉店舗「ほっぺ」と、移動福祉店舗「やきそばカー」で本場の味を堪能することができます。

というのは、ほっと大仙では、調理担当となる前に必ず「横手やきそば暖簾会」の会長から実習を受けているのです。実習のとおり忠実に気持ちを入れてつくると、やきそばは絶品です。やきそばカーで出張販売す

る際には、横手やきそば暖簾会の賛助会員ですので、のほりを立てて販売しています。ちなみに、普通盛りが400円、大盛りが450円、特盛りが500円です。取材日はちょうど大仙市役所での出張販売日です



横手やきそば暖簾会の会長が使用する麺とソースで、味も本場と同じです



横手やきそば暖簾会会長の実習風景

平成21年度出店集計

(平成22年2月25日現在)

月日	事業所開所日数	出店回数	売上高(円)
4月	21	10	106,710
5月	21	11	158,720
6月	22	12	135,440
7月	22	11	178,370
8月	19	11	281,590
9月	21	11	133,660
10月	23	18	462,080
11月	22	14	142,810
12月	20	7	35,970
1月	20	6	35,860
2月	19	6	97,800
計	230	117	1,769,010



ほっぺの店内。今でも駄菓子の販売は続いています

た。昼ときには市役所の職員の方が列をなします。常連の方が多く、「いつもありがとう」「とてもおいしいよ」と気持ちのよい挨拶が飛び交います。また、予約販売もあり、「12時に大盛りが30」といった感じで、限りあるやさそばを確保するためのコツも実はあるようです。常連の一人、大仙市総務部秘書課長の佐々木昭さんにお話を聞いています。

「ほっと大仙の方ががんばって作ってくれるやさそばは本当においしいです。これを食べて午後もがんばろうという気持ちになります。この市役所での出張販売が収益を上げる場の一つになればと思いますし、就労の場から地域全体の活性化にもつながってくれるのではないかと思います」。

この移動福祉店舗の売り上げは特筆もので、横手やさそばだけで上げたものです（前ページ表）。また、来年度の outlet 計画もすでに決まっており、135日に出張販売する予定です。

「8月なら大曲花火競技大会、10月なら数回の秋祭りといった感じで、毎年のデータの蓄積からおおよその売上予測も立てられるのは大きいです」とのこと。

4 就労についてのスタンスは自然

「ほっと大仙」では、3障害すべての方に対してサービスを提供しています。利用者の方の特性にもよりますが、「できる仕事をわかちあおうとするワーキングシェアの考え方」（高橋さん）で、福祉店舗「ほっぺ」での弁当物販作業、出張販売を中心に、名



多少の雪でも大丈夫

刺・年賀状の作成、クロネコヤマトのメール便配達などさまざまな作業を行うようにしています。

奈良さんは「最近では精神障害の方の利用希望が増えています。長年引きこもっていた方が、ほっと大仙なら出てくるのができると、社会参加のきっかけになっているようです」と説明してくれました。高橋さんも「利用者さん自身が思っていることを言える環境づくりを心がけています」とのことです。障がいがあっても地域で働きたい、暮らしたいという願いが大切にされています。

5 評価の高まり

「一つひとつの事業を確実に積み重ねてきた「ほっと大仙」。2007（平成19）年3月には「秋田県バリ

アフリー推進賞」を、翌年3月には「平成19年度地域づくり総務大臣表彰」を受賞しました。どちらも大変意義深いものであり、地域に根ざした活動が確実に実を結んでいるあらわれでしょう。

また、この地域の障害福祉サービスの先陣をきっている「ほっと大仙」には、地元出身の俳優である柳葉敏郎さん、寺田典城秋田県知事（当時）、日本テレビの山王丸和恵さんなどが訪れたことがあります。総務大臣表彰を記念した動画とあわせ、これらの様子は「ほっと大仙」のホームページに掲載中です。一度ご覧ください。

6 「福祉のまちづくり」の更なる発展に向けて

2007（平成19）年12月には、大仙市社会福祉協議会の委託を受けて、弁当・配食サービスを開始しています。これにより、「より地域に溶け込んでいっている」とのことです。自身の事業発展とともに地域活性化にも寄与している「ほっと大仙」。今後について高橋さんは、「秋田県の名産の一つは米ですよ。せとかくの名産ですから、米を生かしてなにか創り出していきたいですね」と前を見据えます。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
奈良さんはこう締めくくりました。

「ここまでできたのは周囲の支えがあったからこそ。これからもより地域と結びついていきたいです。しかも、お互いにハッピーになるかたちで」。